



高橋政之さん

profile

昭和13年生まれ。(株)黒壁代表取締役社長、高橋金属(株)代表取締役、長浜商工会議所会頭、長浜出せまつり実行委員会会長、ながはま21市民会議(現未来ながはま市民会議)初代会長。

市民主導のまちづくりに牽引され、黒壁の年間来訪者数は、立ち上がりから13年目に200万人を超え、市街地を訪れる交流人口が飛躍的に伸びました。また、その成功は、中心市街地再生のモデルとして数々の賞を受賞し、全国からは、年間400件以上の視察団が長浜を訪れるようになりまし。黒壁は、商業や観光といった経済面だけでなく、長浜のまちづくりの象徴として、また全国への情報発信メディアとして、さらには市民の誇りとして、一つの文化を築きました。黒壁が長浜のまちづくりに果たしてきた役割は、計り知れないものがあります。

「20周年を迎えられたのは、地域のみなさんに支えていただいたおかげです。黒壁は、市民・企業・行政が連携して実行してきたまちづくりのシンボルの存在で、一企業というよりもまちづくり会社。

20年の節目の年に、もう一度ガラスを見つめ直し、さらに磨きをかけ、ブランド力を高めていきたいと考えています。そして何より、地域のファンをもっともつと増やしたい。ガラス文化に親しんで、地元を誇りをもつてもらい、ずっと長浜に住み続けてくれる人が増えるとうれしいですね。今後、みなさんと共に新しい文化を築き、いつまでも地域に愛される黒壁であることを願っています。」

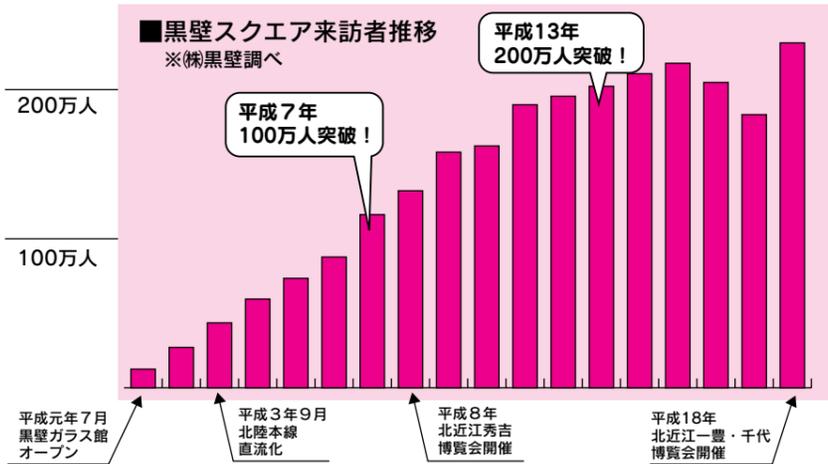
市民に息吹くガラス文化

黒壁産のガラス作品は、商店街の通り沿い、長浜駅など市内のいたるところで見られるようになりました。また、学校などでは、出張黒壁ガラス教室が開かれ、子どもの頃からガラス文化に触れる機会も増えてきました。



出張黒壁ガラス体験教室でガラス文化に親しむ子どもたち

長浜ライオンズクラブから寄贈された黒壁製大型スタンドグラス(長浜駅)



黒壁の使命は、経済効果だけでなく、ガラス文化を発信し継承していくことです。黒壁の名前は、まちづくりの象徴としては全国区になりましたが、ガラスブ

ランドとしてはまだまだ知られていないのが現状です。黒壁の使命は、経済効果だけでなく、ガラス文化を発信し継承していくことです。黒壁の名前は、まちづくりの象徴としては全国区になりましたが、ガラスブ



西川英敏さん

profile

昭和17年生まれ。長浜地区地域づくり協議会設立準備会代表、(有)二北国光協会の副会長、(社)長浜観光協会の副会長。

「湖北、長浜の良さは、進取の気風に富んだ町衆の意気、そこから生まれる強い絆。伝統・文化を大切に、新しいものは積極的に取り入れる。また、みんなが手弁当であつたり知恵を出し合つて何かに取り組む。そんな住民気

に返るいいタイミング。いつまでも黒壁という冠だけに頼らず、みんなで知恵を出し合つて新しいまちづくりを進めていきたいですね。」

新たなプロローグ

中心市街地には、年間約200万人が訪れるようになり、近年、定住人口の少子高齢化の進行による地域コミュニティの衰退、日帰り観光客中心の交流人口増加の限界など、様々な課題が出てくるようになってきました。こうした課題を乗り越えるため、地

域では、住民主導のまちづくりを実施する長浜地区地域づくり協議会が設立の最終段階に入り、市では「中心市街活性化基本計画」「景観まちづくり計画」「観光イノベーション戦略」を策定し

「プロジェクトを立ち上げるのは、これまでの20年を振り返り、これからの20年を考えるため。最終ゴールは、これからの新しいまちづくりの設計書を作ることにあります。長浜には、市民主体で発生したイベントがたくさんありますが、そこからは多くのリーダーが生まれてきました。イベントは人材発掘・育成の場。今回も黒壁

質があつたから黒壁のまちづくりは成功したんじゃないかと思えます。それと、ガラスをコンセプトにしたのが良かった。地元で競合する店舗が無いので、すんなり受け入れられて、共存共栄できたんだと思います。黒壁ができて、ガラスが身近になりましたね。テリケートで美しいガラスを肌で感じるようになり、事あるごとにガラスを取り入れようかと考えるようになりまし。商店街でも黒壁オリジナルのガラスを装飾に使っている店舗も増えてきています。20周年は、みんなが一度原点

域では、住民主導のまちづくりを実施する長浜地区地域づくり協議会が設立の最終段階に入り、市では「中心市街活性化基本計画」「景観まちづくり計画」「観光イノベーション戦略」を策定し



沢田昌宏さん

profile

昭和33年生まれ。NPO法人まちづくり役場副理事長、(株)沢田商店代表取締役、長浜芸術版楽市楽座運営委員会会長、平成5年度長浜青年会議所理事長

「プロジェクトを立ち上げるのは、これまでの20年を振り返り、これからの20年を考えるため。最終ゴールは、これからの新しいまちづくりの設計書を作ることにあります。長浜には、市民主体で発生したイベントがたくさんありますが、そこからは多くのリーダーが生まれてきました。イベントは人材発掘・育成の場。今回も黒壁

KUROKABE 20th anniversary 黒壁20周年記念事業 4月19日(土)スタート 詳細は、次号でお知らせします。